ルゴ県立博物館（ルゴ県議会博物館ネットワーク）

1932年、ルゴ県議会は同県の文化遺産の収集と保護を目的に、ルゴ県立博物館の創設を決定し、2年後、それまで個人コレクションに分散していた考古学・歴史・芸術的資料を集め、様々な展示室がサン・マルコス館にオープンしました（指揮を執ったのはルイス・ロペス・マルティ）。コレクションが増え続け、スペースが手狭になったため、博物館は1957年に旧サン・フランシスコ修道院に移転されます。かつての修道院の3部分（台所、回廊、食堂）を残し、ビゴ出身の建築家マヌエル・ゴメス・ロマン（1875～1964）が、ドゥラン・ロリガの以前のプロジェクトに基づき、ガリシアの伝統的な屋敷風の新しい建物を設計しました。1962年3月1日、ルゴ県立博物館はスペインの文化遺産に指定されました。1997年、博物館は建築家ゴンサレス・トリゴのプロジェクトに従い拡張されました。

1960年代初頭に建築家ポンス・ソロージャが設計した博物館の庭園は、自然・芸術的価値で際立つ独特の空間を構成しています。自然の点で特に注目されるのは、素晴らしい2本の樹木です。常緑樹のタイサンボクと斑入りセイヨウヒイラギで、カエデやポプラなども見られます。この空間にはガリシアとポルトガルの彫刻家の5作品が展示されている他、テイシェイロ（ルゴ）から所蔵された民衆の手による古い「石造りの十字架」、フランケアン（オ・コルゴ）のマイルストーン、ソベルにあった巨石記念物「マルコ・ダ・ペドラ・ロンガ」も非常に興味深いものです。

1階

1.食堂：18世紀建造で、半円筒天井に覆われ、石造りの説教壇があります。ルゴ県の伝統的建造物の模型コレクションが収められています。

2.台所：（18世紀）。ここでは、魅力的な粗石積みの暖炉がある石造りの独特なかまどが際立っています。ガリシアの伝統的な台所に特有の道具や家具が置かれています。

3.回廊：（15～18世紀）。1931年にスペインの文化遺産に指定。通路には、日時計（最古のものは1685年に製造）、ローマ時代と中世の碑銘（祭壇、銘板、マイルストーン）、紋章、柱頭、石棺、墓碑、様々な時代の石造彫刻の多種多様なコレクションが展示されています。特筆すべきは、サンタ・マリア・デ・フラガス（カンポ・ラメイローポンテベドラ）から所蔵されたゴシック様式の飾り天蓋の4部分で、新約聖書の場面が表現されています。

3 (2).かつての司教座聖堂参事会会議室への入口。ローマ時代の聖石の重要なコレクション（土着の神に捧げられたものもあります）、パウルス・ファビウス・マクシムスのルゴ市創設銘板、カスティジョン（パントン）の円板状無銘石碑2点（9～11世紀）などがあります。

入口：17～18世紀の収納家具（飾り戸棚、書き物机、大櫃）。

4-5-6.宗教芸術：イタリア派とスペイン派を中心とした15～20世紀の宗教的な絵画。ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロック様式の彫刻。宗教行列の十字架（16～19世紀）と聖遺物箱、雪花石膏製の作品、ロザリオなど。

7.ローマ属州の造形美術とモザイク：アルマニャとバティタレスのモザイク（3世紀）と、1～4世紀のローマ時代の様々な彫刻作品。中でもクレセンテの石碑、二面に彫刻のあるアダイとアタンの石碑が際立っています。

2階へ続くネオバロック様式の階段。**入口**には、偉大なガリシア人彫刻家フランシスコ・アソレイ作『聖ラモンと聖フランシスコへの捧げ物』があります。

2階

8.古代の金銀細工：主に青銅器時代とカストロ文化時代の首輪、イヤリング、腕輪、その他の金銀製品の非常に重要なコレクション。

9.先史時代と考古学：上部回廊の北、東、南翼部を占めています。旧石器時代からローマ文明化までのルゴ県の考古学的資料が展示されています。

10.古銭とメダル：イベリア半島の様々な歴史的時代の代表的な硬貨（紀元前3世紀～20世紀）と、18～20世紀の記念メダル。

ガリシア芸術

11.黒玉（ジェット）と金銀細工：サンティアゴ・デ・コンポステラの黒玉の装身具（16～18世紀）と、18～19世紀の大衆的な金銀細工（特徴的な「サポ」と呼ばれるものなど）の作品。

12.絵画：ロマン主義と地方主義。19、20世紀のガリシア造形美術を代表する芸術家（J・ペレス・ビジャミル、ディオニシオ・フィエロス、レオポルド・ビジャミル、バアモンデ、ロマン・ナバロ、セラフィン・アベンダーニョ、フランシスコ・ジョレンス、キンタス・ゴヤネス、セイホ・ルビオ、ソトマヨール、マヌエル・アベンデラなど）。X・ピノ、M・ピカジョ、オテロ・ベステイロ、ボノメなどの**彫刻作品**。

13.歴史的前衛と戦後。ルゴ出身のティノ・グランディオやマルハ・マジョの他、コルメイロやカステラオの作品。

14.具象・抽象芸術。アルフォンソ・アベンデラ、フェリペ・クリアド、スカサス、ブラス・ロウレス、ルイス・G・パラシオス、ロペス・グンティン、ライムンド・パティーニョに代表される運動。

15.アントニオ・フェルナンデス。ポンテベドラ出身の芸術家で、イタリアのアンティコリに数年間在住。写実主義の彼の作品に同地はよく描かれています。主なテーマは風景で、光と色彩を重視していました。

16.シュリア・ミンギジョ。ルゴ出身のこの芸術家は、1940年、全国美術展にて代表作『ドロリーニャスの学校』で最優秀賞メダルを獲得した最初の女性でした。

17.シェスス・R・コレドイラ。ルゴ出身の画家で、プラ、スロアガ、ソロージャの弟子。展示作品の多くで明らかなように、エル・グレコの影響も見られます。

18.彫刻：プチャデス、ピカジョの作品と、ショセ・マリア・アクーニャが制作した庶民の様々な場面の作品群。

19.ロサ・デ・サルガデロス：19世紀のサルガデロス王立工場（セルボールゴ）の4時代に製造された重要な陶器コレクション。

20.陶器とガラス製品：ラスター彩陶器（マニセス、ムエル）、ほうろう引き・模様の描かれた陶器（タラベラ、プエンテ・デル・アルソビスポ）、プリント柄の陶器（「ラ・カルトゥハ」、カルタヘナ）。サン・イルデフォンソの「ラ・グランハ」工場製造の**ガラス製品とクリスタル製品**。

21.ロマン主義展示室：装飾芸術と肖像画：装飾・服飾芸術や、エスキベル、ゴンサレス・デ・ラ・ペーニャ、ティソット、パルド・レゲラ、バラカ、マドラソ一族が手がけた肖像画が展示されています。

22-23.近代・現代芸術。バロック様式から20世紀前衛主義までの絵画で、ペーター・ロース、カルロス・デ・アエス、アルバレス・ドゥモント、ニコラス・ソリア、ゴンサロ・ビルバオ、クルス・エレラの作品を展示。イグナシオ・ベロソ、ホセ・フィオラバンティ、オテロ・カンプスの20世紀の彫刻作品。展示作品ではトーレ＝イスンサ作『ピエタ』が際立っています。これらの作品の多くは、プラド美術館とソフィア王妃芸術センターの所蔵品です。

24-25-26-27.ガリシア芸術：素描と版画。このスペースの入口には、ガリシア人彫刻家の様々な作品が展示されています。続いて、現代のガリシア人芸術家たちの素描と版画作品が鑑賞できる展示室と、カステラオ、プリエト・ネスペレイラ、カストロ・ヒルの展示室がそれぞれあります。

28.シャンデリア。ホセ・バレラ・ダフォンテ氏から寄贈された様々な時代（シリアーパレスチナ、ヘレニズム、ローマ、ビザンティン、イスラム）の興味深いシャンデリアコレクションで、その年代は紀元前 2300 年から 15 世紀までにわたっています。